

「houzan KRAFT SC430 波乱のレースを6位入賞！
最終戦もポイントゲットで有終の美を飾る」



早いもので、3月16日に開幕戦を迎えた今シーズンの SUPER GTも、ついにシリーズ最終戦を迎え、有終の美を飾りたい「houzan KRAFT SC430」は、季節もすっかりと秋めいてきたホームグラウンド、静岡県は富士スピードウェイへと到着。

残念ながらシリーズチャンピオンの可能性は消滅したものの、チーム過去最高のランキングでシリーズを終える可能性はまだ十分に残しており、ここ最終戦の富士ではシーズン2度目となる表彰台を是が非でも欲しい所。

迎えた金曜日のフリー走行。

予報によると決勝日は晴れが予想されているが、この金曜日は朝から雨。前日の夜から降り始めた雨の影響で路面は完全なウェットだが、フリー走行開始前にはほぼ雨もあがり、セッション終了間際にはドライへ変わるか？という状況の中、まずは片岡からコースイン。

インターミディエイトタイヤのいくつかのタイプを試す為、ピットイン&アウトを繰り返しつつ走行を重ね、残り45分でピーターへと交代。変わったピーターもいくつかのタイプのタイヤをチェックするが、セッション残り20分程となった所で走行ラインがほぼドライに！ 残り時間にドライタイヤを投入するのは、効率的では無いと判断し、チームはここで午前の走行を切り上げ、セッションを終了した。

完全なドライコンディションとなった午後のセッション。ドライタイヤを温存している「houzan KRAFT SC430」は、ドライが想定される予選&決勝に向け本格的にセットアップを開始。

まずはベストセッティングを探るべく、スリックを装着したピーターがコースイン！ 事前のテスト同様、好タイムで走行を続けるピーターは、何度かピットイン&アウトを繰り返し、まずは5番手とした所で片岡へと交代。片岡も精力的に周回を重ね、マシンがまずまずの状態となった所で迎えたクラス別走行時間帯。ニュータイヤを装着したピーターは予選シュミレーションモードでアタックを行い、1'34.624で5番手のタイムを記録。救済措置を受けているマシンと互角のタイムが出た事で予選に向け明るい兆しのフリー走行となった。

宝
山
本格焼酎

TOYOTA

TOYOTA
motor
sports

Racing Development
TRD

BRIDGESTONE

BANDAI

RealVoice

ESPELIR

KYB

GARMIN

PMU
RACING PADS

ENKEI

MOTUL

公式予選日

11月 8(土)

予選1回目

10:10~11:10

迎えた予戦日。
夜半から降り始めた雨は止むことなく降り続け、予選1回目は完全なウェットコンディション。

午後のスーパーラップに向け天候は回復する方向との事だが、直前のサポートレースの走行映像を見る限り、コース上には所々川状の水溜まりも見えるハードレイン。

なんとしてもスーパーラップ進出を目指す「houzan KRAFT SC430」はレイン用に若干のセッティング変更を加え、セッション開始と同時にピーターがコースイン！

雨の量に合わせ溝の深いレインタイヤを装着したピーターは、走行を続ければ続けるほどライン上の雨が減り状況が良くなる方向と読み、500クラスの走行時間帯を走り続けベストラップを出す作戦。

各車走るたびにタイムを更新する目まぐるしい予選となるが、ピーターは常に上位5番手あたりのタイムで推移し、残り1分！コース上に留まるマシンが各車最後のアタックを行う中、ピーターも各区間で自己ベストタイムを更新する走りでも果敢にアタックを行い、1'45.526で総合3番手へポジションUP！

そのまま混走セッションとなるが、最後までタイムを更新するマシンは現れず、見事総合3番手で文句なしのスーパーラップ進出を決めた！



予選2回目 13:45~14:15
スーパーラップ 14:55~15:30

迎えた午後の予戦2回目。
スーパーラップに向け最後の調整となるこの15分間の走行。
雨脚は弱まったものの、相変わらずシトシトと雨は降り続け、路面はウェットコンディション。
まずは溝の深いレインタイヤでコースインしたピーターは、コース

コンディションを確認すると今度は溝の浅いレインタイヤへと交換。

1周、2周と徐々にペースを上げ、3周目、区間ベストを更新し見事に総合トップのタイムを記録、路面とマシンのバランスは決まっているようで後はスーパーラップを待つだけの展開となった「houzan KRAFT SC430」であった。

14時55分・・・いよいよ迎えた今年最後のスーパーラップ！

予選10番手から始まるスーパーラップ、1回目の予選3番手となった「houzan KRAFT SC430」は8番目の出走順、かろうじて雨は上がったものの、路面はウェットのまま、路面温度も下がりつつある難しいコンディションのもと、溝の浅いタイプのレインタイヤを装着したピーターがコースイン！

ほぼミスもなく美しいアタックラインで走行し、1'43.585でまずは5位とするが、その後#24にタイムを更新され、結果6位で予選を終了する事となった。
決勝はドライが想定される為・・・表彰台への期待が高まる予選となった。

宝山
本格焼酎

TOYOTA

TOYOTA
motor
sports

Racing Development
TRD

BRIDGESTONE

BANDAI

RealVoice
USA・JAPAN

ESPELIR

KYB

GARMIN

PMU
RACING PADS

ENKEI

MOTUL

フリー走行

11月9日(日) 8:35~9:05



迎えた決勝日。

前日までの雨は上がったものの、さすがに11月の富士、めっきりと冷え込みもはや初冬を思わせる肌寒さの中始まった朝のフリー走行。

決勝に向けては最後の走行となるこのセッション、金曜日にドライでは走行しているものの、気温、路温共に大きく変わっており、そういう意味では非常に重要なこのセッション。

今回、ドライ、ウェット共にマシンの状態は好調な「houzan KRAFT SC430」であるが、気温が下がった事によるタイヤへの影響を確認する為、まずは片岡からコースイン！ 夜露もあり完全には乾いていないコンディションの為、浅ミゾのレインタイヤで走りはじめ、その後ドライタイヤへと交換、残り10分ほどでピーターへと交替し、それぞれ良いフィーリングを持って走行を終了。マシンはかなり期待出来そうな仕上がりであり……あとは決勝レースを待つばかりの「houzan KRAFT SC430」となった。

決勝レース(66Laps)14:00 スタート



しばらくはSUPER GTも見納めとばかりに、グランドスタンドは超満員のファンで埋め尽くされ、朝からどんよりと曇った空模様さえも吹き飛ばすかのような熱気の中迎えた決勝日。

スタート前のウォームアップランが始まると同時になんと！ 神様のいたずらか？ ファンの熱気を裏切るかのように薄暗い空からはポツポツと雨粒が路面を濡らし始め、波乱の展開を予想される流れ。 その後も小振りながらシトシトと雨は降り続け、路面も徐々に黒くなる事から「houzan KRAFT SC430」はグリッドへとレインタイヤを持ち込み、スタートぎりぎりまで様子を伺った結果、ピーターは溝の浅いレインタイヤをチョイス！ ほぼ全車が同様のチョイスを行い迎えたスタート！ 路面の状況もあり各車慎重にスタートをした事により、心配されたトラブルも無く第1コーナーを通過。

TOYOTA

TOYOTA
motor
sports

Racing Development
TRD

BRIDGESTONE

BANDAI

RealVoice
U.S.A. JAPAN

ESPELIR

KYB

GARMIN

PMU
RACING PADS

ENKEI

MOTUL

スタートドライバーをつとめた片岡は慎重かつ果敢にスタートダッシュを決め、1周目なんと早くも#100を捉えピット前を5位で通過！ さらに順位を上げるかと思われたその矢先、気まぐれな富士の神様の仕業か？ 雨は止み路面は徐々に乾く方向となり4周目、「houzan KRAFT SC430」はすかさずピットイン！ スリックタイヤへと交換しコースへと復帰。この頃になるとほぼ全車がスリックタイヤへ交換の為ピットインを行い、ピットは大混乱！ 8周目、順位が落ち着いた所でポジションは11位、さあ、ここから巻き返しかという10周を過ぎたあたりから、なんと再び霧雨が降りはじめ…各車たまたまペースダウン。

難しいコンディションの中、片岡はスリックにも関わらず絶妙のコントロールで走行を続け、11日目には#22を抜き、その後#24、#36が相次いでピットインした事もあり8位へと順位を上げ、耐えに耐えた29周目なんと6位までポジションを戻した所でピーターへとドライバーチェンジ！

クルーの迅速な作業、ここまでスリックで頑張った片岡の走り等もあり、33周目、順位が落ち着いたタイミングでポジションは一気に2位まで浮上！

浅溝のレインを装着するピーターは果敢にマシンをコントロールし、表彰台の中央を目指す展開となるが、47周目、300クラスと交錯する際に一瞬レコードラインから外れた事でリアタイヤの温度が急激に下がってしまったのか？

ラップタイムに若干陰りが見え始め、#38に先行を許すと続いて52日目には#6、60周目には#32にも先行を許し、ポジションを5位へと下げる。

雨脚が一層強くなってきた事もあり、一度下がった温度を上げる事が出来ずピーターは苦しい戦いを強いられるが、それでも粘り強く走行を続け、64周目に#39に先行を許すが、しぶとく6位入賞、ポイントゲット。これで今シーズンは全戦でポイントを獲得し、チームランキング7位でシリーズを終える事となった。

■ 大澤 尚輔 監督

今日は非常に波乱のレースでした。(苦笑)

金曜日から調子が良く、ドライでも雨でもそこそこ早かったので……

今回は表彰台は堅いのでは？と思ってましたが…すっかり天気にも翻弄されましたね。でも二人のドライバーが手堅く頑張ってくれ、トラブルに巻き込まれる事もなく6位入賞が出来て良かったです。

今シーズンは新しいパッケージでの挑戦の年でしたが、目標はクリア出来たと思います。来シーズンはマシンも新しくなりますしもっと上を目指して頑張りたいと思います。

1年間温かいご支援、ご声援本当にありがとうございました。



■ ピーター・ダンブレック

今日は天候の変化などもあり非常に難しいレースでした。

スタート前に雨が降り、タイヤチョイスにも悩みましたが、レースの作戦としては良かったと思います。順位的には2位まで上がる事が出来、優勝も望めそうな展開だったのですが…300クラスを抜く際に一瞬ラインを外れてしまったらタイヤがすっかり冷えてしまったようでリアが安定しなくなりました。その後も雨の量が増え回復できないままレースを終える事になりましたが、チームもマシンも非常に良い感じで進歩していますので、来年はもっと良いレースが出来ると思います。来年に繋がるという意味でも良いレースだったと思います。



■ 片岡 龍也

今週は通してクルマの状態が非常に良く、朝のフリー走行でもかなり良い感じだったので十分表彰台は見えるな！と思ってたのですがスタート前に雨が降り、結構難しいレースになりました。

天候がごろごろと変わり難しい状況だったのですが、チームが絶妙なタイミングでタイヤ交換してくれた事もあり2位までポジションを上げた事は良かったと思います。後半は天候の事もあり、多少残念でしたが…十分優勝を狙えるポテンシャルであった事は示せたのではないかと思います。今年は新体制だったのですが、レースの毎に成長できたと思います。1年間ありがとうございました。





■ 予選結果

順位	ゼッケン	車名	ドライバー		タイム
1	17	REAL NSX	金石 勝智	金石 年弘	1'42.661
2	24	WOODONE ADVAN	JP. オリベイ	荒 聖治	1'42.883
3	1	ARTA NSX	ラルフ・ファーマン	伊沢 拓也	1'42.932
6	35	houzan KRAFT SC430	ピーター・ダンブレック	片岡 龍也	1'43.585

※上位10台はスーパーラップ方式での記録タイム

■ 決勝結果

順位	ゼッケン	車名	ドライバー		周回数
1	12	カルソニック IMPUL GT-R	松田 次生	セバスチャン・フィリップ	66
2	38	ZENT CERUMO SC430	立川 祐路	リチャード・ライアン	66
3	6	ENEOS SC430	伊藤 大輔	ビヨン・ビルトハイム	66
6	35	houzan KRAFT SC430	ピーター・ダンブレック	片岡龍也	66

■ ポイントランキング (チーム)

順位	チーム	ポイント
1	PETRONAS TOYOTA Team TOM'S	94
2	TOYOTA Team CERUMO	93
3	NISMO	86
7	houzan TOYOTA Team KRAFT	68

■ ポイントランキング (ドライバーズ)

順位	ドライバー		ポイント
1	本山 哲	ブノワ・トレルイエ	76
2	立川祐路	リチャード・ライアン	72
3	脇阪 寿一	アントレ・ロッセラー	63
9	ピーター・ダンブレック	片岡 龍也	45